

# Vol.6

## 「リーダーシップ進化論」

### 読后感想

#### ■課題図書の概要

## リーダーシップ 進化論

人類誕生以前から  
AI時代まで

- 著者：酒井 穰
- 出版社：BOW & PARTNERS
- 定価：2000円+税

「リーダーシップ進化論」は、リーダーシップに関する「いままでに見たこともない素晴らしい本」として、エルビス越前が絶賛。

読書会メンバーは、その評価を信じてこの本を課題図書としてトライしてみました。

# ひと言



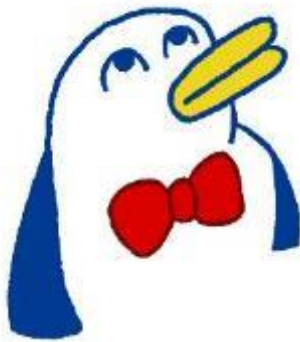
学びのジョナサン

本の帯に

「これは、著者から我々への挑戦状だ」と推薦文が書かれています。まったく、その通りです。私などは、その鋭い指摘や分析のパンチを食らってダウン。そして、さあ「立ち上げれ！」とこの本は「檄」を飛ばす。覚悟がいる本だと思いました。

## MEMBER

今回の  
参加メンバー



M氏



S氏



エルビス越前



学びのジョナサン



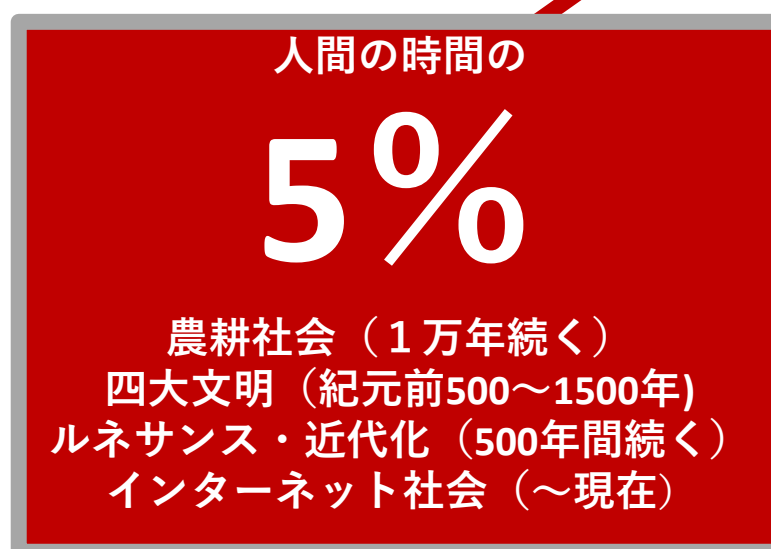
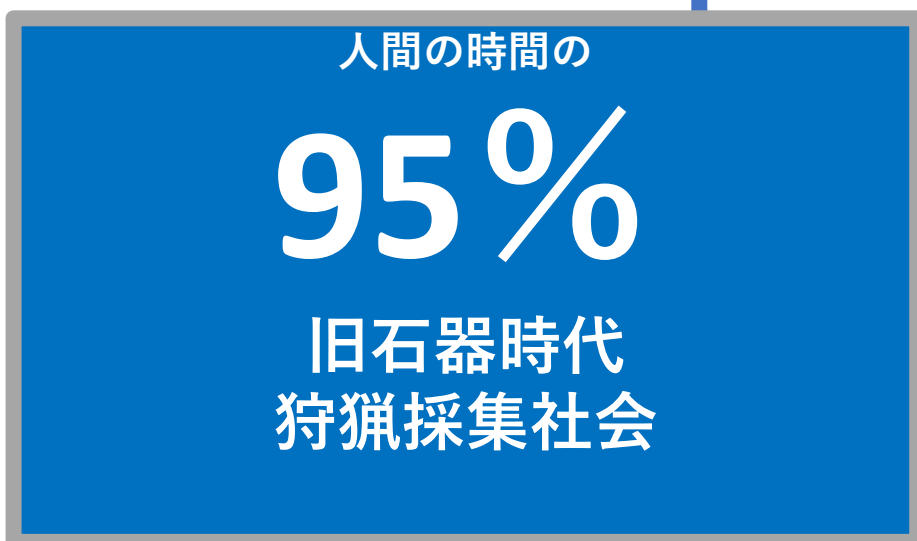
K氏

それぞれの読后感想の「理解」を深めるために



## この本の 「スケール」と 「読みどころ」をつかもう

人間（ホモ・サピエンス）誕生以降の  
「20万年前」から、いまの時代までを俯瞰して考察



私たちの中には、いまでも  
狩猟採集社会に適応していた遺伝子が残っている！

こうした考察が、  
私たちがいま抱えている疑問や不安の構造解明に  
大きな手掛かりを与えてくれる

それぞれの読后感想の「理解」を深めるために



## まず 旧石器時代に注目

人間の時間の  
**95%**  
旧石器時代の  
3つのポイント

**1** 火の使用こそ、  
人間と他の動物との  
違い? かも

### 〈火の使用〉

→安全、暖房、調理・食事～  
脳の発達・夜のミーティング

**2** 本来利己的な人間が、  
利他性を持てる鍵

### 〈ミラー・ニューロン〉 (脳内の神経細胞)

→共感、感情移入しやすい～利他  
性獲得の鍵、高度な言語の獲得、  
集団の同質化～同調圧力

**3** 膨大な知識の蓄積  
「巨人の肩」に  
乗れるのは人間だけ

### 〈コレクティブ・ラーニング〉

→ある個体の知識が集団内で共有され、  
さらに集団や世代を超えて蓄積～イノベー  
ションの根底、人類全体の知識の蓄積へ

ここで押さえておきたいのは、人間を進化させた要因。  
そして、人間にとっての進化は、「文化的進化」であること。  
(「生物学的進化」ではない。生物学的なセンサーなどは逆に退化)

それぞれの読后感想の「理解」を深めるために

## そして、「禁断の果実」を 食べた人間を振り返る



人間の時間の

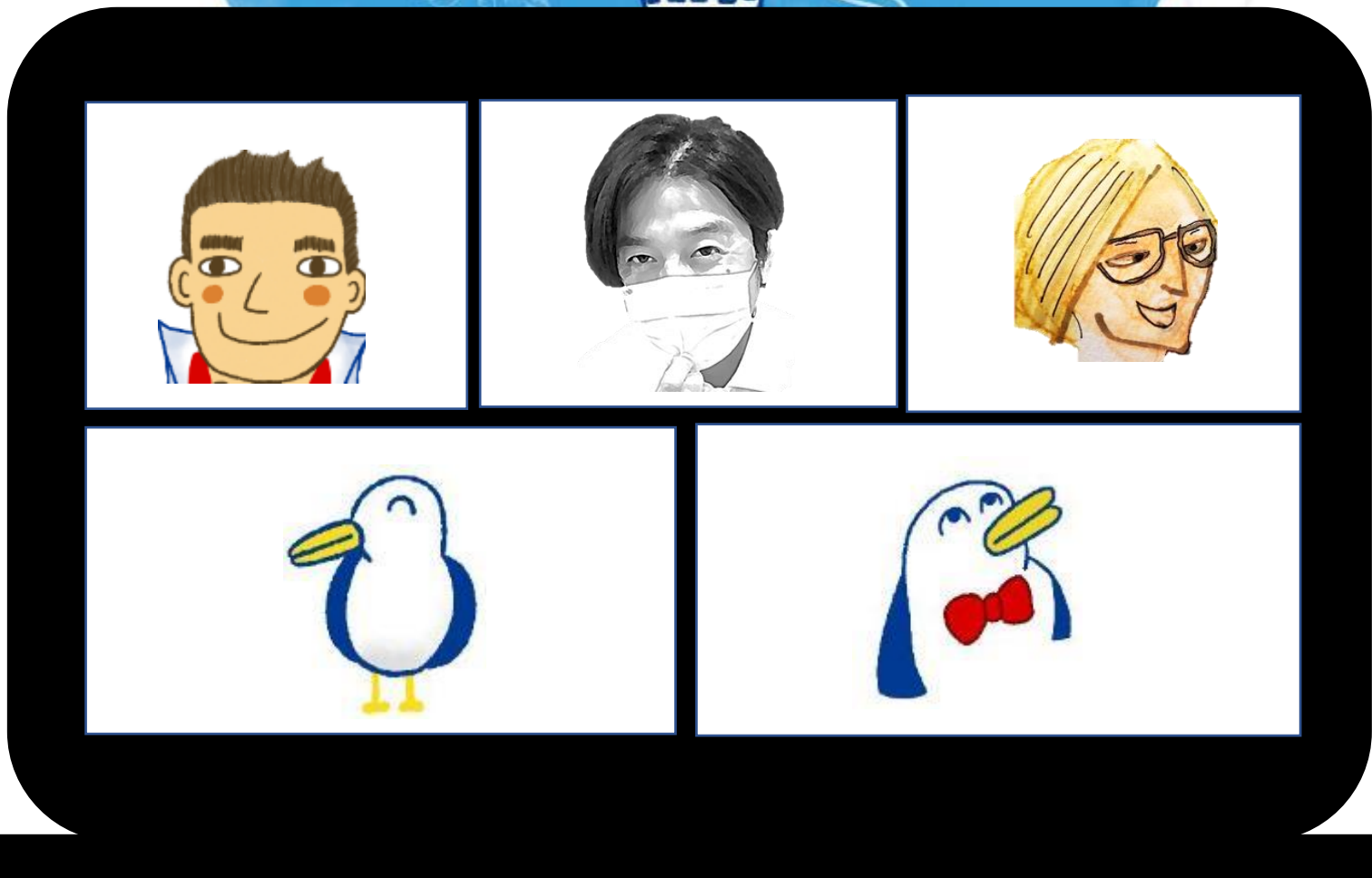
**5%**

農耕社会（1万年続く）  
四大文明（紀元前500～1500年）  
ルネサンス・近代化（500年間続く）  
インターネット社会（～現在）

農耕社会になり、「富」という禁断の果実を味わった人間。  
そのときから格差が生まれ、「富」を守る、領土や人民を守る、  
という役割を持つリーダーが求められるようになった。  
しかもリーダーには、その時々環境によって求められるものが変わる。  
そうした中でも、人は「幸せ」を追い求める。  
それは、さようならした  
「旧石器時代へのノスタルジー」に過ぎないのかもしれない。

# さあ、語ろう！

この本で  
みんなは、何を感じた？

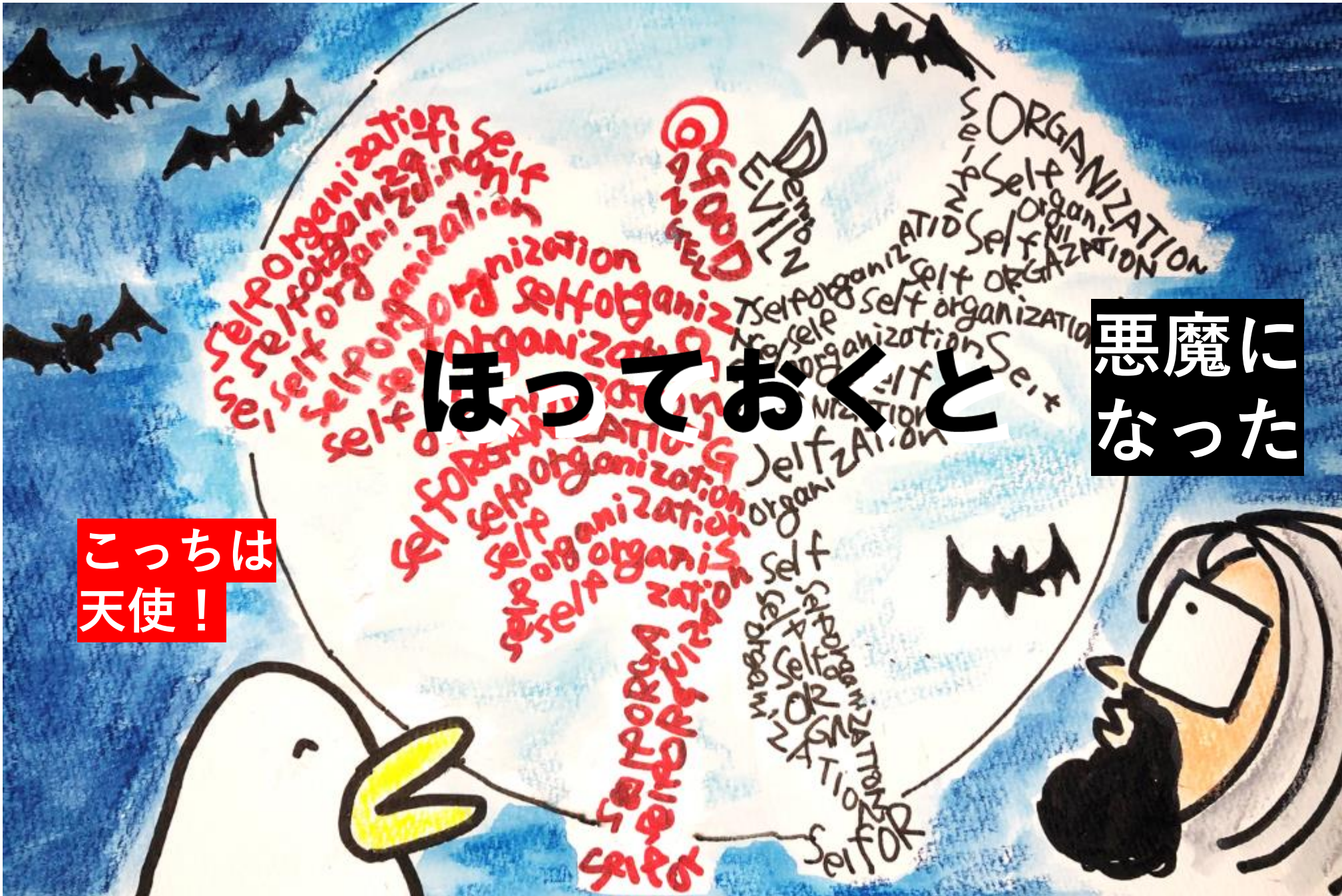


リーダーシップ進化論を読んで



自己組織化は、衝撃的だった。  
人間は、天使か、悪魔か？  
成り行き任せには、してられない。

群れは、ある特定の規則によって自発的に「何か」  
になっていく。人間は、放っておくと、天使にも悪  
魔にもなるらしい。



こっちは  
天使！

ほっておくと

悪魔に  
なった

群れ（集団）には規則がある。リーダーがいなくても、  
群れは機能する。この本では、それを「自己組織化」  
によるものとし、その存在を前提として展開している。  
自己組織化により、集団は環境変化に応じて自発的に  
進化していく。いままでの歴史を振り返ると、放って  
おくと「いい方向」には、行かないかもしれない。



リーダーシップ進化論を読んで



「ネオテニー」って、知らなかった！  
人間の本性は、子どもであること!?

子どもの持つ特徴を大人になっても持っている（=ネオテニー）。つまり、人間は、新しい環境に適応するために、子どもであり続けることを選んできたらしい。

**Animation  
JAPAN**

それ、意味  
違うって

**Neoteny?**

幼形成熟

アニメ  
大好き

子どもの特徴は、知る欲求、好奇心、驚く心、実験精神、探索する心など…。安全で、生存が保障された環境では、子どもとして新しい環境への適応力を維持した方が有利。だから、人間は子どもであり続けることを選んできた。優れたリーダーとは、子どもぽくって愛嬌のある人物なのかもしれないね。





リーダーシップ進化論を読んで



すごいね！ミラー・ニューロンと  
コレクティブ・ラーニング。  
これが進化のキーだったんだ！

組織文化の継承、組織における知識の蓄積について、このミラー・ニューロンとコレクティブ・ラーニングの存在で、納得！これが、人間が他の生物とは違う進化を始めたキーだとわかった。



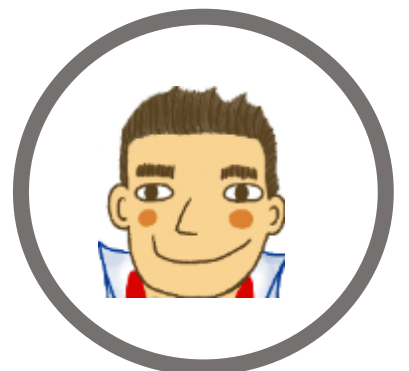
僕も  
君の気持ちわかる  
苦労したんだね

君の気持ち  
わかるよ

ミラー・ニューロンは、他者の行動や感情を「自分のこと」として反応する脳内の神経細胞。これにより、人間は他者の行動に感情移入したり、共感・共鳴することができる。

コレクティブ・ラーニングでは、ある個人が得た知識が言語によって組織内に伝達され、さらに世代や組織をも超えて人類全体で知識が蓄積されていく。

「巨人の肩に乗る」がごとく、人間だけが、過去の偉大な知識の積み上げを前提として生きられる、ということだ。



リーダーシップ進化論を読んで



どうして私たちは、  
なかなか幸せになれないのか？  
理由がわかる気がした。

誰もが「幸せ」には、なりたい。  
でも、私たち人間が過去に選んだ「幸せ」とは、  
何だったのか。



そういえば  
人間は、昔々  
「幸せ」を  
捨てたんだ

狩猟採集社会から、農耕社会へ。  
このとき私たちの祖先は、「財産を持たず、平等と  
平和のうちに生きること」ではなく、「社会的な地位  
を求め、他者よりも多くの財産を持つこと」を選んだ。  
この本に書かれている『私たちにとって「幸せ」は、  
最高の価値ではなかった可能性がある』という一節は、  
かなり衝撃的だった。



リーダーシップ進化論を読んで



この「問い」は、  
紀元前からの大いなるテーマ。  
難しいはずだ。

自らを神と称するリーダーが雨乞いをしても  
雨が降らない...。  
神や神話を信じる時代が終わったとき、  
人間に大いなる「問い」が生まれた。  
その問いは、いまでも...

## 人間はいかに生きるべきか

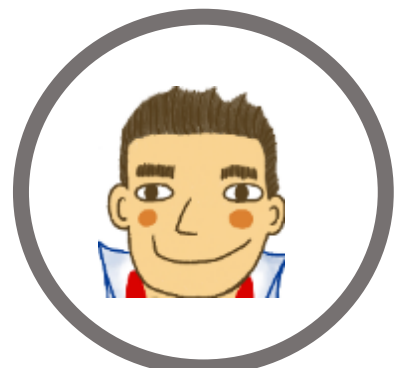
日本の  
偉大な  
哲学者だ

きっと寅さんが  
教えてくれる

四大文明の時代（紀元前500年頃～）には、思想や哲学が一気に花開いた。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、仏陀、孔子、老子…。

「人間はいかに生きるべきか」——自分たちの運命を神任せにしない、いまでも続く永遠の「問い」がここから始まった。

リーダーシップとは、この問いに自分なりの答えを持つこと。だから、リーダーには「英知」が求められるということだね。



リーダーシップ進化論を読んで



やっぱり！  
スーパーチキンだけ集めても、  
組織的にはダメだとわかった。

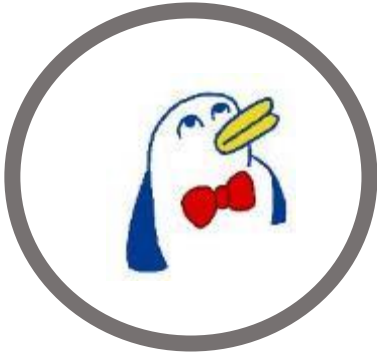
周りとは仲よく暮らせる鶏たちの集団こそ、  
生産性（卵を産む）が高い!?  
生産性は、個人ではなく、組織単位で見るとべきなのだ。



ダーウィンはもちろん、古代ギリシアの哲学者たちも、  
すでに「個人の利他性を育むことが、組織全体の生産  
性に寄与すること」に気づいていた。  
いま問題なのは、人間にとって最大の組織がいまだに  
国家であること。その国家が他国に対して完全に利己  
的な「スーパーチキン化」して共食いをやっている。  
治らない。まさに危機だ。



リーダーシップ進化論を読んで



自己組織化によって  
勝手に出現するのは、どんな未来か？  
笑いごとでは、すまされないと思った。

AIの進化、シンギュラリティ...映画の世界だったものが、  
現実化する。映画はハッピーエンドかもしれないが、  
現実はどうだろうか。

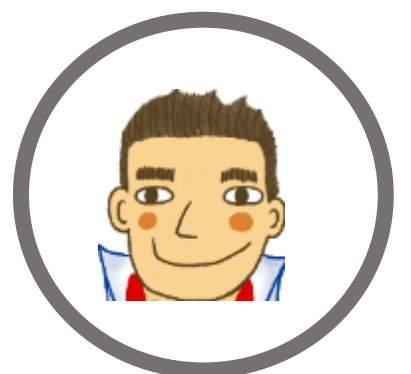


「シンギュラリティ（人工知能が人間の知性を凌駕）  
が、2045年までにくる」

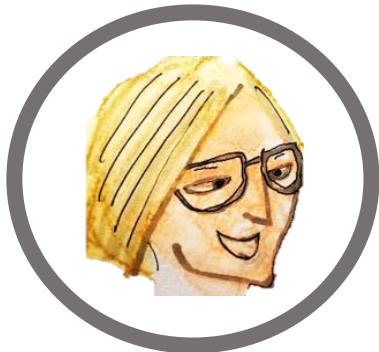
「種としての人間が生態系トップから2位になる」

「全体をコントロールするリーダーなしで、社会の  
変化だけが加速する」

著者の私たちに対するメッセージから、私たちの世界  
は、実は大変な場面に来ていることが理解できる。



リーダーシップ進化論を読んで



グレタ・トゥーンベリが、  
ブレずに環境問題にコミットする姿は、  
新しい世界的リーダーそのものだ。

国家という枠を超えて、地球規模で社会課題を考える  
ことの大切さ。

はずかしい話、この本で「グレタ・トゥーンベリ」や  
「ジョン・レノン」の“視点”を、改めて認識しました。

地球を  
救うのは  
誰だ

想像してごらんよ。  
世界はひとつに  
なれるって。

え、キミ  
ジョン・レノン？

著者が強烈に言っていることは、「私たちは専門家  
でなく、知識人であり、素人であるべきだ」と。  
つまり、専門知識を提供し、それが何に使用されても  
関知しない存在（専門家）ではなく、権力から距離を  
置き、権力の間違いを批判する存在（知識人）であれ、  
ということだね。  
グレタの問題提起に対して、リーダーはもちろん、  
それを選ぶ私たちも知識人としてできることを明確に  
して、一隅を照らす光の精神で生きていきたいね。



リーダーシップ進化論を読んで  
最後に

みんなの「幸せ」を考え、  
そのために頑張るリーダーが、  
いまこそ必要になっていると思う。

その「幸せ」とは、何か、

この本では、  
さよならした旧石器時代に  
そのヒントがあるとしている。

**必要なのは、「私たちが人間例外主義を卒業し、  
狩猟採集社会のルネサンスに向かうことかもしれない」**

そのためには、  
**「命あるものは、それだけで尊厳を持ち、  
お互いの存在をリスペクトしなければならない」**

こうしたシンプルで大らかな心を持つことが  
大切だと思いました。

最後まで、読んでいただき、ありがとうございました。

